植草学園大学研究紀要　第５巻　95～101頁（2013）

B. Edu. Health Sci. UG Univ. vol. 5, 95-101, 2013

調査報告

高校生が抱く保育士のイメージと職業選択の基準

広瀬　由紀［1］　植草学園大学発達教育学部

The Image of Nursery Teachers High School Students Cherish and the Career Choice Standard

Yuki HIROSE　Faculty of Child Development and Educations, Uekusa Gakuen University

本研究では，保育専門職を目指す学生が，養成校内の実習経験等により保育者へのイメージが変わり，保育者効力感が低下することがあることを受け，そもそも高校生が，保育職に対してどのようなイメージを持っているのかについて調査した。

その結果，保育士のイメージについては，個へのイメージは高いものの，社会的なイメージは低く抱いていること，保育職を希望している高校生のほうがより肯定的なイメージを抱いていることが示唆された。また，高校生の職業選択については，先行研究が示すとおり自己実現を重視している傾向が高かったが，クラスにより若干の傾向の違いもうかがえる結果となった。

キーワード：高校生，保育士イメージ，職業選択

In this study, I asked some high school students the image of nursery school teachers. It is a reason that the image to a child-care worker changes the student who wants to become childcare professionals by practical work of childcare training school, and all. This change could lead to decline of pre-school-teacher-efficacy.

As a result, on the image of nursery teachers, they have a friendly image, but they don't respect them from a social standpoint. And I can confirm that they decide their career choice to achieve their self-actualization as the earlier studies suggests.

Keywords: high school student, image of nursery teachers, career choice

１．はじめに

我が国では，約２万１千の許可保育所において，約33万人の保育士が保育に従事している[1)]。しかし，田頭ら（2011）は，待機児童を減少させる政策や，女性の就労支援への対応を理由の一つとして，都市部の保育所は慢性的な保育士不足であること，子ども･子育て新システム検討会議作業グループが「2014年を目指して，保育サービスを受ける子どもの割合を，３歳未満児の４人に１人から３人に１人にする」と提案していることから，今後さらに保育士の需要が高まることを指摘している[2)]。一方で，高校生がなりたい職業として「保育士・幼稚園の先生」は，2009年度の調査で１位に挙げられており[3)]，保育職を希望する声も大きいことがうかがえる。

保育職への希望，保育職を希望する声ともに高い状況ではあるが，保育士養成においては問題を抱えることが少なくない。神谷（2009）は，保育者養成

［１］著者連絡先：広瀬　由紀

校において，時代に即した専門性を有する保育者を輩出することが求められている一方で，地域社会の崩壊に伴う子育ての密室化などによって，乳幼児にかかわった経験がないまま保育者養成校に進学する学生が増加していることや，学校場面における進路指導が多くの場合，上級学校に入学するための進学指導としての様相を呈しており，保育者養成校のような目的養成の学部においてすら，卒業後の進路を決めずに入学してくる学生は少なくないことなど，学生の多様化を指摘している[4]。同じく神谷（2010）は，保育者養成校への進学のきっかけ（動機）や理由によって在学中の保育者効力感がどのように変化するかについて検討した結果，進学理由な消極的な理由を挙げている学生が，実習や就職活動が進むにつれ，保育者効力感を低下させていることを示している[5]。また椛島ら（2007）は，保育士養成校への入学生のほとんどが，「保育者」というキャリアイメージを持って入学してくるものの，大学における学習体験によって学生のキャリアイメージが揺らぐ場合があることを指摘している[6]。また，京免（2011）も，保育者養成校の学生の大部分が，保育専門職に対する積極的動機をもって進学してくるが，彼ら／彼女らの抱いている保育者像は表面的かつ理想主義的なものになりがちであり，実習体験内容に応じて保育者のイメージがよくなったり，悪くなったりするとしている[7]と同様の指摘をしている。しかし，先行文献で示されている「保育者のイメージ」は，保育者養成校へ進学した学生を対象とされたものしかなく，進学前のものは存在していない。

そこで本稿では，三つのタイプの異なる高校２学年を対象に質問紙調査を実施し，すでに保育士への進路を考えている生徒と現時点では考えていない生徒との保育職に対するイメージの違いについて考察を行うことを目的とする。

２．方法

２．１　調査の概要

⑴　調査対象

千葉県内の三つの高校に在籍する高校２学年の生徒を対象として，質問紙調査を行った。調査対象とするクラスは，特色別に以下の８クラスとした（()内は人数を示す)。

・私立Ａ高校：女子校で，英語教育ならびに保育士養成を行っている大学・短期大学との連携等を特色としている。進学は90％以上。調査クラスは，英語科（22），普通科（特進クラス（18），レギュラークラス（29），タイアップクラス（33））を対象とした。
・公立Ｂ高校：共学で，95％以上が進学している。調査クラスは，理系クラス（40），文系クラス（38）を対象とした。
・私立Ｃ高校:共学の中高一貫校で，ほぼ100％が進学し，その７割以上は理系の学部という特色を持つ。調査クラスは，理系クラス（40），文系クラス（38）を対象とした。

⑵　調査手続き

各校へ事前に電話やメールで内諾を取り，直接配布・回収を行った。

⑶　調査期間

平成24年７月～10月

⑷　調査内容および分析

「職業への意識に関する項目」「保育士等への希望について」「保育士のイメージ」の三つを主な柱として質問項目を作成した。

「職業への意識に関する項目」：なりたい職業の有無／職業選択の基準／進学希望の有無／希望する学校種別

「保育士等への希望について」：保育士等への希望の有無／希望理由／希望したきっかけ／希望しない理由

「保育士のイメージ」：佐藤（2009）が高校生向けの調査で作成した看護師のイメージに関する項目を参考[8]に，独自のものを加えて30の項目を考え，ＳＤ法を用いて尋ねた。得られた結果について，因子分析（主因子法，Promax回転）を行い，固有値１以上を基準にして因子を抽出した。その因子の負荷量が0.40以上の27項目によって下位尺度項目を作成した。

なお，統計処理はSPSS for Windowsで行った。

⑸　調査実施に際して

手続きおよびデータ入力については，私立Ａ高校ならびにＣ高校については広瀬が行い，公立Ｂ高校については橋本太陽が行った。

２．２　倫理的配慮

質問紙調査は，無記名で行い，調査結果から個人が特定されることがないように実施した。

３．結果と考察

３．１　高校生の抱く保育士のイメージ

高校生の抱く保育士のイメージについて，因子分析結果を表１に示す。

第Ⅰ因子は13項目あり，人として接する個人としての保育士に関連する項目であり，「個へのイメージ」とした。

第Ⅱ因子は14項目あり，社会から見る保育士という職業に関連する項目であり，「社会的イメージ」とした。

保育士の人柄や雰囲気等に関連する個へのイメージに関する項目については，すべてで平均値が3.5以上となり，高校生が肯定的なイメージを抱いていることが示唆された。一方で，社会的なイメージについては，「地位が高い」「科学的な」「派手」「知的な」「大胆な」「休みが多い」の６項目について，平均値が３を下回っており，他の項目についても個へのイメージよりは低い平均値であった。高校生が，保育者という「人」に対しては，イメージを抱きやすい上，そこに肯定的な評価をもってみていること，一方で，保育職という「職業」に対しては，認識が薄いもしくはどちらかといえばマイナスの印象を抱いていることが示唆された。

また，保育士を希望している生徒と希望していない生徒とを比較すると，表２に示すとおり，すべての項目で，保育士を希望している生徒の平均値のほうが上回っており，目指す職業に対して高い評価をしていることが認められた。そのうち個のイメージに関する５項目，社会的イメージに関する８項目については有意差がみられた。希望している生徒が，自分の将来を意識しながら，職場体験やボランティアに意欲を持って取り組んだり，保育に関連するニュースなどに関心を持って視聴し考えたりすることで，保育士・保育職に対するイメージが高校２学年の段階で具体化しているのではないかと考えられる。

表１　高校生が抱く保育士のイメージ（Ｎ＝258）

質問項目		全体平均	パターン配列 Ⅰ	パターン配列 Ⅱ
個へのイメージ	Ｆ７子どもと遊ぶ	4.574	0.844	−0.158
	Ｆ11親しみやすい	4.314	0.790	−0.044
	Ｆ６優しい	4.190	0.787	−0.049
	Ｆ２常に笑顔でいる	4.167	0.756	−0.116
	Ｆ10話しやすい	4.198	0.683	0.049
	Ｆ１子どもが好き	4.589	0.634	−0.129
	Ｆ３女性が多い	4.260	0.597	−0.251
	Ｆ５ピアノが弾ける	4.306	0.509	0.004
	Ｆ22道徳的な	3.864	0.454	−0.006
	Ｆ８健康	3.857	0.451	0.217
	Ｆ９おしゃべりな	3.748	0.420	0.191
	Ｆ12若々しい	3.519	0.414	0.160
	Ｆ４器用な人が多い	3.845	0.407	0.235
社会的イメージ	Ｆ15地位が高い	2.814	−0.026	0.744
	Ｆ29科学的な	2.376	−0.246	0.702
	Ｆ27個性的な	3.256	−0.038	0.682
	Ｆ18派手	2.465	−0.164	0.678
	Ｆ26創造的な	3.327	0.041	0.657
	Ｆ17強い	3.132	0.070	0.653
	Ｆ13未来がある	3.205	0.192	0.637
	Ｆ30知的な	2.977	−0.015	0.589
	Ｆ16立派	3.531	0.197	0.547
	Ｆ14尊敬される	3.395	0.261	0.546
	Ｆ28視野が広い	3.570	0.080	0.526
	Ｆ21大胆な	2.748	−0.022	0.484
	Ｆ25安定した	3.306	0.115	0.455
	Ｆ19休みが多い	2.380	−0.149	0.415
	因子間相関			0.540

表２　保育職への希望の有無によるイメージの違い

質　問　項　目		保育士希望（N＝25）	希望なし（N＝120）	
個へのイメージ	F７子どもと遊ぶ	4.72	4.54	
	F11親しみやすい	4.64	4.23	＊
	F６優しい	4.44	4.18	
	F２常に笑顔でいる	4.16	4.15	
	F10話しやすい	4.56	4.11	＊
	F１子どもが好き	4.96	4.58	＊
	F３女性が多い	4.24	4.33	
	F５ピアノが弾ける	4.60	4.28	
	F22道徳的な	3.72	3.91	
	F８健康	4.48	3.77	＊＊＊
	F９おしゃべりな	4.24	3.68	＊＊
	F12若々しい	3.84	3.52	
	F４器用な人が多い	4.00	3.83	
	F20苦労が多い	4.20	4.04	
社会的イメージ	F15地位が高い	2.96	2.81	
	F29科学的な	2.64	2.31	
	F27個性的な	3.84	3.23	＊＊
	F18派手	2.60	2.47	
	F26創造的な	3.92	3.27	＊＊
	F17強い	3.68	3.13	＊
	F13未来がある	3.80	3.18	＊＊
	F30知的な	3.32	2.86	＊
	F16立派	3.92	3.54	
	F14尊敬される	4.04	3.28	＊＊
	F28視野が広い	4.16	3.42	＊＊＊
	F21大胆な	3.08	2.73	
	F25安定した	3.80	3.26	＊＊
	F19休みが多い	2.52	2.38	

※＊ p＜＝0.05，＊＊ p＜＝0.01，＊＊＊ p＜＝0.001

３．２　保育士を希望する理由・しない理由

保育士を「希望する」と回答した生徒は25名で，うち21名は私立Ａ高校だった。

希望する理由は，図１で示すとおりであり，「子どもが好きだから（80%）」「やりがいのある仕事だと思った（52%）」の順に多い結果となった。先行研究では，高校生が職業に対して，自己実現志向が高いといわれているが，保育職については，京免[7]の結果と同様，対象となる子どもへの関心をきっかけに，その世界への扉を開いている傾向が高く示された。また，「お世話になった先生の影響」をあげた生徒が３割以上おり，乳幼児期の経験が，将来を意識づけるきっかけにつながる場合も少なくないといえる。京免[7]は，養成校へ入学する学生の約７割が，高校進学以前に保育職を希望しており，進路決定が非常に早いとしている。

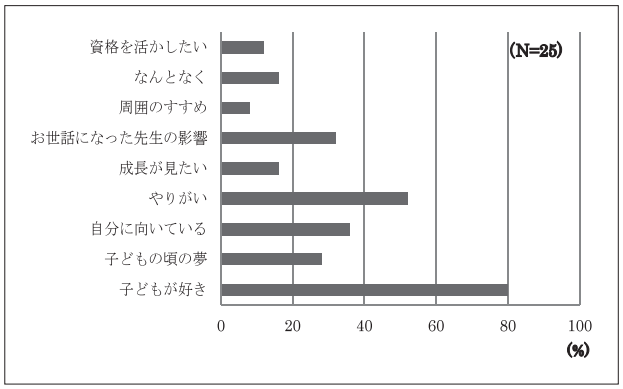

図１　希望する理由

保育士を「希望しない」と回答した学生は120名で，その理由は，図２で示す通りであった。８割以上の生徒が，「他にやりたい職業がある」という積極的な理由に基づいていることが確認された。一方で，２割以上の高校生が「仕事が大変そう」という理由から保育士を希望しないと答えており，養成校としては「大変さ」だけではない保育職の魅力を幅広く伝えていく必要性があると考えられる。

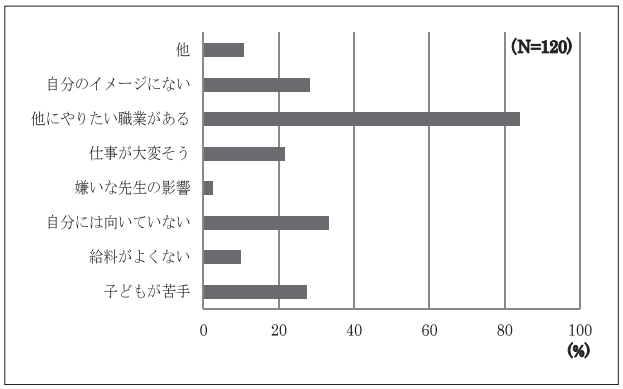

図２　希望しない理由

３．３　職業選択の基準

高校生に「なりたい職業の有無」を尋ねた結果，図３で示すとおり，75%があると答えた一方で，自分の興味関心のある分野へ進学し，進学先で職業について考えるという高校生が全体の４分の１に至ることもわかった。

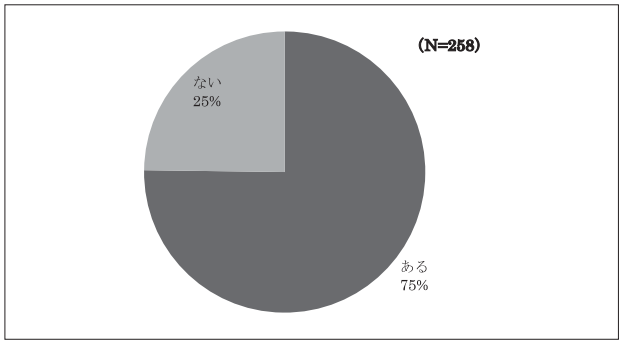

図３　なりたい職業の有無

高校生の職業選択の基準については，全体として，図４に示すように，「やりがいのある仕事（65％）」「自分に向いている（65％）」がともにもっとも多く選択された。これは，日本労働研究機構（1991）[9]などで，高校生が職業において自己実現を重視しているという結果と重なる結果となった。

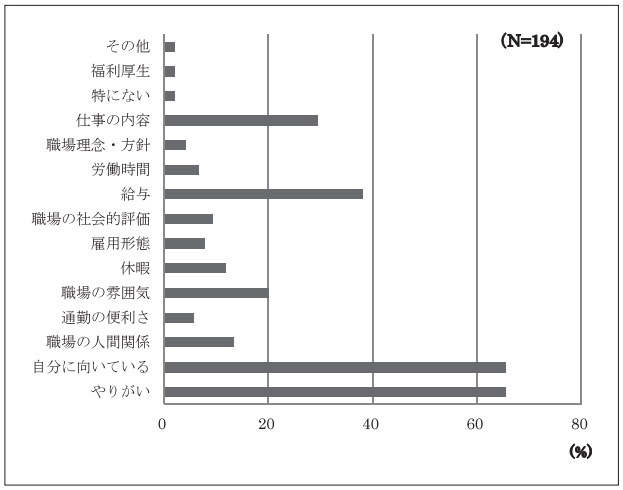

図４　職業選択の基準

職業選択の基準について，クラス別に分けて示したものが表３となる。多くの高校生が，自分のやりがいや適性を重視して職業選択を行っていることがうかがえる。

結果をクラス別に分けて概観すると，今後精査する必要があるが，３点ほど興味深い傾向や特徴が見られたので記したい。

第一に，理系の２クラスおよびＡ校英語クラスでは，「通勤の便利さ」を選択した学生が０であり，職業そのものとの関連性の薄いものについては，それを基準として考慮していない高校生が多い様子がうかがえる結果となった。

第二に，正職員か契約職員かなどといった「雇用形態」については，Ｂ校，Ｃ校ともに理系クラスのほうが文系クラスよりも多く選択している傾向があることが読み取れた。松本(2008)は,「若者がフリーター・ニートになることを積極的に希望していると指摘する議論とは異なり，高校生の多くはそのような不安定な雇用形態を望んでいない」[10]ことを指摘しているが，本研究ではクラスの違いによってその傾向が異なる可能性がうかがえる結果となった。

第三に，先行研究では，高校生が職業において，社会的地位や名声を低く評価しているといわれているが，Ｃ校の理系クラスでは，職業選択の基準に際して「職場の社会的評価」を挙げた高校生が，２割以上に上り，他のどのクラスでも見られない特徴がみられたことは，興味深い結果であり，今後さらに厳密な検討を要すると考えられる。

４．今後の課題

今回の調査では，保育職を目指す生徒に関して，松本[10]が指摘した「具体的に就きたい職業をイメージすることは，職業のもつ有用性を高く評価することと結びついている」ことがいえる結果となった。一方で養成校には，今回調査した高校２学年の時点では進路を決めかねている者も入学している。そのような生徒の場合，すでに進路を定めている生徒に比べ，経験や情報の不足などから，保育職に対するイメージがより具体性に欠けることが推測される。今後の課題として，進路決定時期によるイメージの違いや，抱くイメージの違いによる在学中のキャリアイメージの変化等について検討していくことが挙げられる。また，神谷は，保育者養成校に在学する学生の保育者効力感の時系列的な変化については，実習場面での成功経験のみならず，日常的な学習場面や教員や友人からのサポートなどによっても変化するとしており，在学中のキャリア・ガイダンスの必要性について示唆している[5]。キャリア・ガイダンスの内容等による効力感の変化についても，今後，養成校として実践しながら検討していくべき課題ではないかと考える。

また今回，保育士を希望する高校生の84％が福祉系高校に在籍していた。岡（2010）は，福祉系高校

表３　職業選択（クラス別比較）

	A（英語）N＝22	A（特進）N＝18	A（レギュラー）N＝29	A（タイアップ）N＝33	B（理系）N＝40	B（文系）N＝38	C（理系）N＝40	C（文系）N＝38
やりがい	72.2	61.5	60.0	64.5	63.0	63.6	66.7	69.7
自分に向いている	66.7	84.6	70.0	71.0	55.6	77.3	60.0	54.5
職場の人間関係	22.2	7.7	5.0	22.6	14.8	9.1	10.0	12.1
通勤の便利さ	0.0	23.1	5.0	6.5	0.0	9.1	0.0	9.1
職場の雰囲気	16.7	7.7	15.0	25.8	29.6	22.7	16.7	18.2
休暇	16.7	7.7	5.0	16.1	18.5	13.6	3.3	12.1
雇用形態	5.6	7.7	10.0	3.2	14.8	4.5	10.0	6.1
職場の社会的評価	5.6	7.7	5.0	3.2	7.4	9.1	23.3	9.1
給与	22.2	7.7	40.0	35.5	55.6	31.8	46.7	42.4
労働時間	0.0	7.7	5.0	6.5	11.1	9.1	10.0	3.0
職場理念・方針	5.6	7.7	0.0	0.0	0.0	4.5	3.3	12.1
仕事の内容	22.2	30.8	30.0	25.8	29.6	31.8	30.0	33.3
特にない	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	4.5	3.3	0.0
福利厚生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	3.0
その他	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	4.5	0.0	6.1

＊数字はすべてパーセントを示す

の生徒のキャリア形成について，就業への接続には離職率の低さから一定の成果が報告されているとしているものの，福祉系大学の接続については満足度や教育内容との関連性等，検討されていない部分が多くあることを指摘しており[11]，この点についても今後の課題であると考えられる。

５．謝辞

本調査にご協力いただいた学校の先生方，およびご回答いただいた高校生の方々に記して感謝いたします。また，本調査にあたっては，発達教育学部橋本太陽氏の協力を得ました。

６．文献

1) 厚生労働省．平成23年度 社会福祉施設等調査．(オンライン) <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/fukushi/11/index.html>(参照 2012. 12. 26)

2) 田頭伸子・金丸キミエ・堀田稔・奥原球喜・福間早苗・國冨みずほ・三川明美．保育者養成校(短期大学)卒業生のキャリア形成に関する調査．広島文化学園短期大学紀要．2011; 44: 47-55

3) ベネッセコーポレーション．「第2回子ども生活実態基本調査」(オンライン) <http://benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009/pdf/data_11.pdf>(参照 2012. 12. 26)

4) 神谷哲司．保育者養成系短期大学生の保育者効力感の縦断的変化－実習時期と就職活動を通じた進路選択過程に着目して－．キャリア教育研究．2009; 28(1): 9-17

5) 神谷哲司．保育系短期大学生の進学理由による保育者効力感の縦断的変化.保育学研究．2010; 48(2): 192-201

6) 椛島香代・平山許江・松村和子・牧田薫．保育学科学生の実習体験におけるキャリアデザインの構築に関する研究．文教学院大学総合研究所紀要．2007; 8: 129-148

7) 京免徹雄．女性保育者の初期キャリア形成に関する一考察－短期大学生の職業観の変化に着目して－．早稲田大学教育学部紀要．2011; 13: 235-252

8) 佐藤信枝. 高校生が感じる看護職のイメージと理解度. ヘルスサイエンス研究. 2009; 13(1): 91-98
9) 日本労働研究機構. 高校生の職業生活設計－高校生の進路選択等に関する調査より－(調査研究報告書No.20). 1991; 日本労働研究機構
10) 松本浩司. 高校生の職業観の構造と形成要因－職業モデルとの関連を中心に－. キャリア教育研究. 2008; 26: 57-67
11) 岡多枝子・三並めぐる. 福祉系高校生及び大学生のキャリア形成. 日本福祉大学社会福祉論集. 2010; 123: 127-139
12) 三木和子. 本学学生の学生生活満足度の分析－推薦入試入学者と一般入試入学者の比較,および学業成績上位者と下位者の比較－. 頌栄短期大学研究紀要. 1991; 23: 1-15
13) 田中秀明. 保育者養成校における学生の学習理由と保育者志向性および学校適応感ならびに保育職に関する効力感との関係.共栄学園短期大学研究紀要. 2002; 18: 167-177